ふりがな 氏　　名	なかにし こうすけ **中西 康祐**	職　　名	准教授
取得学位	博士(保健学)	学会での受賞歴	第１回全国老人福祉施設大会・研究会議（栃木）　臨床介護の実践－EBC を求め、科学的介護を追求する 「デイサービスでの調理活動がもたらす輝き－認知症ケアにおける調理活動が及ぼす効果－」 奨励賞（筆頭発表者 逆瀬川陽祐氏の共同研究者として）
主な担当科目	作業療法学概論　老年期障害作業療法学		
所属学会	日本作業療法士協会　愛知県作業療法士会、日本認知症ケア学会、日本認知症学会、日本認知症予防学会、日本老年精神医学会		

◆ 教育業績

事　　項	実　施 年月(日)	概　　要
1　教育方法の実践例		
1) 授業外における学生の能力を伸ばす取組	平成 30 年４月より令和４年３月まで	学修意欲が高く更なるアカデミックスキルの向上を希望する学生に対して、作業療法のエビデンストピックスを記した英語研究論文の抄読会を開催し、学生の学修向上の取り組みを実践した。
2) 作業療法介入プロセスの理解を促進する取組	平成 30 年４月より令和４年３月まで	作業療法演習Ⅰ、作業療法演習Ⅱ、作業療法演習Ⅲにおいて、少人数制のもと、老年期、身障、精神疾患の各患者のペーパーペーシェントによる事例基盤型学習をおこない、実習前学習の一環として評価治療プロセスの理解の向上に対する支援を実践した。
3) 基本的専門知識の定着を促進する取組	平成 30 年４月より令和４年３月まで	作業療法演習Ⅰ、作業療法演習Ⅱ、作業療法演習Ⅲにおいて、前年度までに学修した専門知識の定着を促進する方策として、年度初めに確認試験を実施した。
4) 基本的専門技能の定着を促進する取組	平成 30 年４月より令和４年３月まで	作業療法演習Ⅰ、作業療法演習Ⅱ、作業療法演習Ⅲにおいて、臨床実習前の基本的専門技能（評価測定手技・治療介入・コミュニケーションスキル等）の学修到達度を図る目的で客観的臨床能力試験（OSCE）を実施した。
5) 臨床実習の教育効果を高める取組	平成 30 年４月より令和４年３月まで	指定規則の改正に伴い推奨される前より診療参加型臨床実習（CCS）を評価実習、臨床総合実習においていち早く導入し、学生の精神的負担を軽減した教育効果の高い実習を実践した。
6) GPA を用いた復習強化型学修支援	平成 31 年４月より令和４年３月まで	老年作業療法評価学演習において、成績下位学生に対する学修支援策として、GPA 値をもとに成績下位の学生を抽出し、ICT を活用して授業毎に復習課題を提示し繰り返し学習を実践した。
7) リモートによる遠隔授業	令和2年4月より令和4年3月まで	COVID-19 の感染予防対策として実施している web 回線によるリモート授業について、オンラインによる双方向参加型授業を実施した。また、臨床場面と web 回線をつなぎ、患者との面接・観察評価をおこない、リモートによる臨床参加型学習を実施した。いずれも、対面授業型と同質の教育の提供に努めた。
8) 準構造化・アセスメントテストにもとづいた個人面談による教育指導	令和4年4月～現在に至る	事前に設定した複数の質問項目に沿うことや、全国的なアセスメントテストを学科教育方針に応用するなど準構造化された面談を実施し、学生個別の課題の抽出により、学習面および生活面の改善を共有し成長につなげる取り組みを実践した。

事　　項	実　施 年月(日)	概　　要
9) 地域住民参加型の OSCE の実施	令和５年２月	見学実習の実習前課題である客観的臨床能力試験（OSCE）において、臨床の実際により近い環境を設定することで、学生個々の課題の気づきと円滑な実習体験につながるよう、地域居住の高齢者に対象者役を依頼して実践した。
10) 反転授業を用いた演習授業	令和4年4月より９月まで	作業療法学概論において反転授業を実施した。講義動画により講義時間外で知識を教授し、講義時間ではグループワークによりコミュニケーション能力や表現力、協働を通してより実践的な臨床力養成を実施した。これにより、知識の定着だけでなく考え方の基礎が養われた。
２　作成した教科書，教材 1) 学生ポートフォリオの開発	平成 30 年４月より令和４年３月まで	学生個々の学修課題の発見や主体的な学修支援の促進を目的に、少人数制のもと学生と教員がマンツーマンで課題解決に向けて取り組める行動目標達成型のポートフォリオを開発し使用している。
2) 事例基盤型学習に用いる教材	平成 30 年４月より令和４年３月まで	ICF に基づく作業療法の評価治療プロセスの理解促進を図る目的で、２年生から４年生まで学修到達目標に合わせたオリジナルの老年期、身障、精神疾患の事例検討課題の資料を作成し教材として用いている。
3) 客観的臨床能力試験（OSCE）に用いる教材	平成 30 年４月より令和４年３月まで	評価測定手技と治療介入の OSCE マニュアルを作成したのに加えて、他の養成校ではほとんど例を見ない日常生活動作の介助場面を想定した評価治療介入シートを開発し教材として使用している。
4) 診療参加型臨床実習（CCS）に用いるマニュアル	平成 30 年４月より令和４年３月まで	研修会で得た情報や先行して実施している他大学の資料を参考に、新たに CCS マニュアルを作成し臨床実習の手引きとして使用している。
5) オンデマンド学習教材の作成	令和4年4月より令和5年3月まで	解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学Ⅰ、生理学Ⅱの講義動画を視聴ができるオンデマンド型の学習教材を作成した。これにより、反復学習ができる環境を設定し、学生の解剖学・生理学の理解を深めた。

◆ 研究業績

区　分	著書･論文･発表テーマ･作品･演目などの名称	単・共	発 行･発 表 年月(日)	発行所 ／ 誌名･巻号 ／ 学会･展覧会･演奏会の名称(会場名)	備　　考
論　文	精神科長期入院患者を対象とした Illness Management and Recovery の実践報告. （査読付）	共	平成 31 年１月	日本臨床作業療法研究.6:	池谷政直，山鹿隆義、岩田悠弥、中西康祐 P1-6
	認知症のある男性に対して“仕事”に焦点を当てた介入 ～高度経済成長期を支えた世代が主体的に取り組める活動～ . （査読付）	単	平成 31 年３月	認知症ケア事例ジャーナル.11(4):	P281-286
	Effects of liaison between physiotherapists and occupational therapists for home-visit rehabilitation: Preliminary study. （査読付）	共	平成 31 年５月	Journal of Physical Therapy Science .31(8): 612-616	Katsutoshi A, Takayoshi Y, Hitoshi M, Daisuke S, Kosuke N P612-616

区　分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発 行・発 表 年月(日)	発行所 ／ 誌名・巻号 ／ 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備　　考
論　文	認知症高齢者の IADL の再獲得が QOL の向上につながった一事例 ～生活支援の手順書の有効性～. （査読付）	単	令和２年３月	健康科学大学紀要.	P16-23
	Effect of Instrumental Activities of Daily Living Habituation due to Routinizing Therapy in Patients with Frontotemporal Dementia. （査読付）	共	令和３年２月	BMJ Case Reports. 2021 Feb 4;14(2)	Kosuke Nakanishi, Takayoshi Yamaga e240167
	Successful occupational therapy at end of life for a patient with prostate sarcoma （査読付）	共	令和３年６月	BMJ Case Rep. CP 2021;14	Takayoshi Yamaga, Katsutoshi Asano, Masanao Ikeya, Kosuke Nakanishi e242056
	Gaps between Activities of Daily Living Performance and Capacity in People with Mild Dementia. （査読付）	共	令和４年11月	International Journal of Environmental Research and Public Health 19(23)	Kosuke Nakanishi, Takayoshi Yamaga, Masanao Ikeya
学会発表	グループホームで暮らす認知症高齢者に対する作業療法士の支援のための予備的調査. （口頭）	共	平成30年９月	第52回日本作業療法学会（名古屋市）	中西康祐, 山鹿隆義, 務臺均 OJ-9-O2
	認知症重症度と ADL の関連の予備的調査. （ポスター）	共	平成 30 年 10 月	第37回日本認知症学会学術集会（札幌市）	中西康祐, 山鹿隆義, 池谷政直 393
	クリニカル・クラークシップ型臨床実習における学生満足度の関連要因に関する検討（口頭）	共	平成 30 年 10 月	第23回日本作業療法教育学術集会（岡山）	春山佳代、山鹿隆義、海保享代、中西康祐、篠原亮二 一般演題
	主観的社会的スキルは OSCE・臨床実習により変化するのか？（ポスター）	共	平成31年９月	第53回日本作業療法学会（福岡市）	高橋享代，山鹿隆義，榎田哲弥，池谷政直，中西康祐 PR-2F05
	Illness Management and Recovery を実施した長期入院統合失調症患者のケースシリーズ研究―社会生活機能に着目して―（ポスター）	共	平成31年９月	第53回日本作業療法学会（福岡市）	池谷政直, 山鹿隆義, 岩田悠弥, 中西康祐 PH-1D03
	認知症の進行に伴う ADL 遂行状況の変化についての予備的調査. （口頭）	共	平成31年９月	第53回日本作業療法学会（福岡市）	中西康祐, 山鹿隆義, 池谷政直 OJ-5-1
	グループホームで暮らす認知症高齢者の生活行為の再獲得が QOL の向上につながった一事例（ポスター）	単	令和２年９月	第54回 日本作業療法学会（新潟市）	中西康祐 PJ-37
	OSCE・臨床実習が及ぼす主観的社会的スキルと自己効力感の変化について（ポスター）	共	令和２年９月	第54回 日本作業療法学会（新潟市）	海保享代, 池谷政直, 山鹿隆義, 中西康祐 PR-47
	課題価値測定尺度を用いた作業療法学生の OSCE に対する課題価値の分析（ポスター）	共	令和２年９月	第54回 日本作業療法学会（新潟市）	池谷政直, 山鹿隆義, 海保享代, 中西康祐 PR-32

区　分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発 行・発 表 年月(日)	発行所 ／ 誌名・巻号 ／ 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備　　考
	地域在住要介護高齢者の睡眠と生活活動の関係についての探索的研究（ポスター）	共	令和２年９月	第54回 日本作業療法学会(新潟市)	浅野克俊, 山鹿隆義, 清水大介, 務台均, 中西康祐 PN-58
	軽度認知症患者のADLのperformanceとcapacityの乖離（ポスター）	共	令和３年11月	第40回日本認知症学会学術集会（東京）	中西康祐, 山鹿隆義, 浅野克俊, 池谷政直 P192
その他(報告書)	高齢ドライバーが長く安全に運転するための反射神経や認知能力向上に役立つ体操について	単	平成31年年６月14日	山梨日日新聞社	高齢ドライバーの安全運転に関する記事執筆